

## 性犯罪の再犯予防に関する現状と課題 ー領域横断的な共同研究の可能性に焦点を当ててー

企画：上宮 愛・仲真紀子（立命館大学 総合心理学部）

話題提供1：鈴木 愛弓（横浜刑務所）

話題提供2：横光 健吾（立命館大学 総合心理学部）

話題提供3：山 祐嗣（大阪市立大学 文学研究科）

指定討論1：山本 渉太（警察大学校取調べ技術総合研究・研修センター）

指定討論2：越智 啓太（法政大学 文学部）

キーワード：性犯罪矯正プログラム、性犯罪再犯予防、性犯罪受刑者の意思決定

### 1. 企画趣旨

2019年8月19日に、法務省矯正局・保護局は、1）現在のプログラムの課題とさらなる充実化、2）刑事施設収容中から出所後までの一貫性のある効果的な指導を検討課題とした、外部有識者を構成員とした、性犯罪者処遇プログラムの検討会を設置した。性犯罪者の再犯予防では、認知行動療法を主体とした取り組みが国内でも進められ、一定の成果を上げていることが確認されている。一方、研究領域をみれば、再犯予防をテーマとした領域横断的な共同研究の数は未だ少ない。本ワークショップでは、国内の刑務所での矯正教育プログラムの現状について議論する。また、臨床心理学、認知心理学、そして、HOWとWHYの両方の側面から性犯罪の再犯防止に関わる研究テーマにおいて、今後の共同研究の可能性を踏まえ、話題提供をいただく。

### 2. 話題提供

話題提供1：鈴木愛弓先生（横浜刑務所）には、刑務所での教育プログラムの現状と、プログラムに対する受刑者の反応についてご報告いただく。

話題提供2：横光健吾先生（立命館大学）に

は、認知行動療法の背景的な理論を踏まえて開発された、ギャンブル依存症者に適応されるアプリケーションについて話題提供いただく。さらに、性犯罪受刑者を出所後に、犯罪の誘因となるような環境手がかりから遠ざけることを目的とし、再犯防止に向けた性犯罪矯正における同様のアプリケーションの応用可能性について議論する。

話題提供3：山祐嗣先生（大阪市立大学）には、認知心理学の意思決定に関する二重過程理論の枠組みで、衝動的な意思決定のネガティブな出力をどのように修正できるのかについて話題提供いただく。

指定討論：山本渉太先生（警察大学校）、越智啓太先生（法政大学）により、犯罪心理学、法心理学などの視点からの指定討論いただく。これまで、国内の性犯罪矯正教育では、認知心理学的な視点や、アプリケーションの積極的な活用はあまり取り入れられてこなかった。これらの視点は、これまでの認知行動療法を主流とする犯罪受刑者の理解をさらに進めるものである。本ワークショップでは、性犯罪の再犯防止に向けた領域横断的な、今後の協働や研究の可能性について議論したい。